

# 隨泉寺寺報

平成17年(2005年)4月号 第416号

082-892-0217 <http://tetunari@ms1.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季永代経法座

講師 品正寺住職 水戸善乗師

講題 「なんまんだぶになる私」



『念声是一といふことしらずと申し候ふとき、仰せに、おもひ内にあればいろ外にあらはるとあり。されば信をえたる体はすなはち南無阿弥陀仏なりとこころうれば、口も心もひとつなり。』

蓮如上人御一代記聞書

なかなかお念仏が申せませんといわれる方があります。そうですね。お念仏を申すというのはなかなか自然に出てくるまでは時間が掛かります。心にもないこと、という表現があります。思っても無いことという言葉があります。しかし本当は心の中にあるから行動に出るのでしょうか。思っているから口にも出るのだらうと思います。しかし心の中深くお念仏が入ってくださるには時間が掛かるのかもしれない。また深い悲しみや嘆きが必要なのかもしれません。知らず知らずほとけさまが入ってきてくださいます。

## 4月の法座予定

- 4月10日……………掃除 長者原西
- 4月14日昼席午後1時より……………春季永代経
- 4月14日夜席午後7時半より……………出張法座 鴨の巣 岩田 龍夫氏宅
- 4月15日朝席午前10時より……………春季永代経 仏婦総会 おとき
- 4月15日昼席午後1時より……………春季永代経
- 4月26日午前9時より……………土曜学校(子ども会)

## つれづれに

3月の始めに実家の母が脳梗塞で倒れました。幸い手当てが早かったので、命に別状はありませんでした。しかしいつかはこういう日がくるだろうと覚悟はしていましたが、あわてました。病院に着くと苦しそうな顔をして目を瞑っていました。しばらくすると気がついて申し訳なさそうな顔で、【心配かけたね】と言います。私は【大丈夫、大丈夫】と繰り返すのが精一杯でした。左半身が不随になっていましたが、次の日には少し動くようになっていましたので、回復してくれることを期待しています。現代医療の進歩は目を見張るものがあります。少し前でしたら、おそらく回復は難しいでしょう。しかしどれだけ医療が発達しても《老い》を治すことはできません。《死》を回避することはできません。いつかは母と別れる時が来るでしょう。そのときまで、そのときまで

自分自身で、生きて動けることができたらいいなあと思います。母が母らしく生きていってくれたらいいなあとおもいます。



新幹線で行くと2時間半ですが、やはりなかなか大変です。顔を見ると安心するのですが、やはりこれからのことを心配しているみたいです。「明日のことは心配しなくて良いよ。明日のことは明日考えましょう。それより身体を治す事だけ考えてください。どんなことがあっても僕がいます」といって帰りました。

ところで4月6日は私の55歳の誕生日です。永六輔さんが【誕生日は両親にお礼を申す日】と何かの本で書いておられたことを思い出しました。不思議な因縁でこの世に生を受けました。

ようこそようこそ僕を生んでくださいました。僕は親不孝で、この年まで心配ばかりかけてきました。少し恩返しのできるチャンスを与えていただいていたよかったです。今までのことを思ったら、あと百年ぐらい生きていただかないと返せそうにもありません。しかし残念ながらちょっと遠いのでなかなかいけないのもどかしいのですが……。

## 仏婦総会

4月15日春の永代経の朝席の後、仏教婦人会の総会を開催します。16年度の行事報告並びに決算報告、17年度の行事予定、予算等を審議していただきます。誘い合わせてご参加下さい。



## 掃除について

今年度から掃除を門信徒会で行ってもらうことになりました。古いおばあちゃんがケガで掃除ができなくなって以来、仏教婦人会の方々が、自発的に毎月清掃奉仕をしていただいていた。今年から婦人部だけでなく門信徒会全員で取り組んでいただくことになりました。よろしく願い致します。基本的には毎月第2日曜日です。

## 御礼

永代経懇志 金 拾萬円 染井 英明殿 故 染井 春枝様 特別永代経志として

